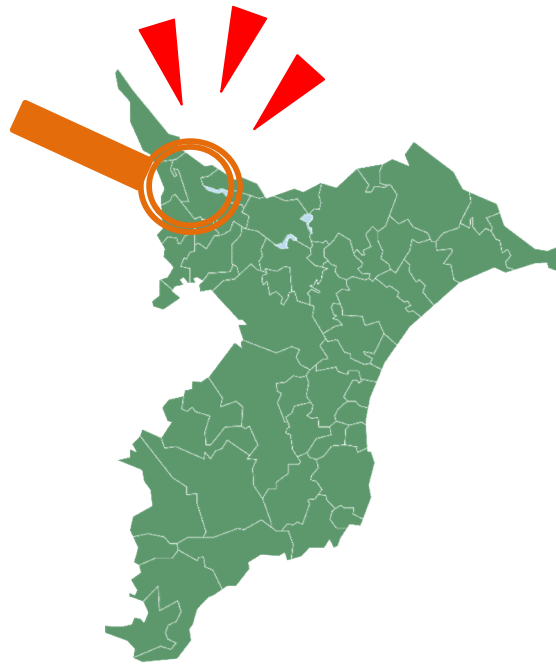


2025・2

柏の景気情報

令和7（2025）年2月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和7年2月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

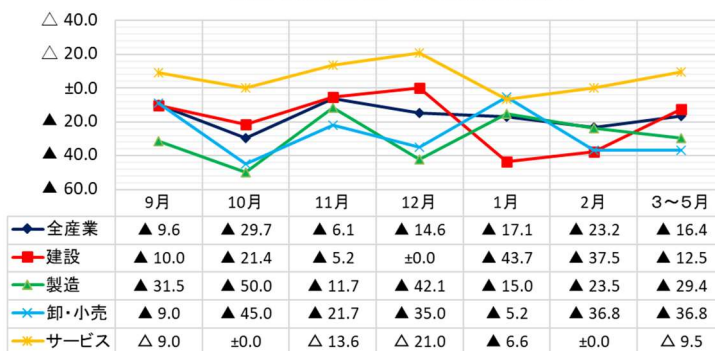
回答期間：令和7年2月18日～令和7年3月4日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数73

業界全体、高騰し続ける諸費用に厳しい状況。その上人材確保のための労務費アップで採算悪化。

2月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲23.2（前月水準17.1）となりマイナス幅が6.1ポイント拡大した。

各業界、原材料含む諸経費の高騰継続による影響大。建築業・卸・小売業では、労務費のアップによる上昇率分が経費を圧迫し、厳しい状況。製造業では、人手不足が未だに解消せず。サービス業では、客単価・仕事量の上昇があり、売上が伸びるも原材料、光熱水費などの経費も値上がりを継続し、採算では悪化している。

柏の景気情報・産業別業況DI



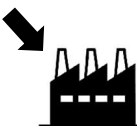
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「材料の値上がりが止まらず、お客様確保が難しい。工務店も受注に苦労しているようで、それに伴い建築に関係している当社も仕事が減っている」（とび）「タイミーのようなすき間バイト探しが、建設業でも使えるようにして欲しい」（一般土木建築工事）「資材高騰の発端はコロナ禍による生産能力の低下が原因であったはず。現在はコロナ禍で生産過程の変化により、より効率化されているにもかかわらず値上げが継続している状況に疑問。労務費の値上げは社員の生活に係ることなので行うが、物価上昇率と並行した上昇率を保てるかは厳しい状況」（塗装工事）



製造業

「業界全体が冷え込んでいると感じる」（その他の機械・同部品製造）「売上はそこそこ回復しているが、光熱水費や原材料等の高騰高止まりで、利益率は悪い。来月から春闘に突入するが、人材確保のため労務費アップは避けられず」（その他の鉄鋼）「現状はコロナ明けの影響で忙しいが、長い目で見ると、最低賃金や時間外割増賃金率の引上げがじわじわと効いて厳しくなると考えられる。機械メーカーからみると、生産現場は人手不足が進行しているので機械の合理化をしなくてはならないが進んでいない。力のない企業は淘汰されると思われる」（一般産業用機械・装置製造）



卸・小売

「原材料の高騰があまりにも激しく、ある程度販売価格に転嫁できるもののすべてをカバーできる状態ではない。下手をすれば原材料費が50%アップである。1年分の原料を一冬買うので当然資金が足りないが、昨今の金利上昇で借入も思い切ってしにくい。困窮している」（食料卸売）「売上は食品や消耗品・ファーマシーは好調。衣料や住居余暇は、昨年実績を微増で上回るも食料品程の力もなく不安定。仕入や人件費の高騰で利益は出にくい状況は変わらない。確定はしていないが、この春から更に人件費も上げる見込みであり、その上げ幅は大きいので他の経費削減では吸収できないレベルになる」（大型小売店）



サービス業

「寒波と強風の影響により来場者が減少したが、客単価の上昇により売上は昨年と同程度を確保。仕入や消耗品価格が引き続き上がっているところに、光熱費や燃料費の高騰が重なり採算は悪化。さらに賃上げ圧力が加わり、先行きの採算も悪化が見込まれる。より一層の業務効率化が必要な状況。減税や社会保険料の引き下げによる実質的な賃上げを政府に強く望む」（ゴルフ練習場）「仕事量も多く売上も伸びているが、仕入れや給与も上がるので利益は伸びない。高騰分をお客様に転嫁しろ、との話は聞くが容易ではない」（コンピューターソフトウェア開発）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲23.2に対し、「CCI-LOBO」が▲20.5で、柏のほうがマイナス幅が2.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.2	 ▲ 37.5	 ▲ 23.5	 ▲ 36.8	 ± 0.0
CCI-LOBO	 ▲ 20.5	 ▲ 16.7	 ▲ 25.0	 ▲ 28.5	 ▲ 13.0
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.3	 ▲ 25.0	 ▲ 5.8	 ± 0.0	 28.5
CCI-LOBO	 ▲ 6.4	 ▲ 10.4	 ▲ 11.4	 ▲ 7.6	 0.4
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.5	 ▲ 37.5	 ▲ 17.6	 ▲ 26.3	 ▲ 4.7
CCI-LOBO	 ▲ 20.7	 ▲ 17.9	 ▲ 22.8	 ▲ 25.6	 ▲ 17.4
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 67.1	 ▲ 62.5	 ▲ 64.7	 ▲ 84.2	 ▲ 57.1
CCI-LOBO	 ▲ 66.6	 ▲ 67.6	 ▲ 63.2	 ▲ 71.0	 ▲ 65.3
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 19.1	 25.0	 11.7	 5.2	 33.3
CCI-LOBO	 22.0	 37.1	 12.6	 18.5	 27.5
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.4	 ▲ 31.2	 ▲ 11.7	 ▲ 15.7	 ▲ 9.5
CCI-LOBO	 ▲ 13.7	 ▲ 6.9	 ▲ 16.1	 ▲ 20.4	 ▲ 11.6

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：2025年2月12日～18日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、コスト増が続く中、天候不順で全業種悪化

先行きは、改善示すも不変的な見方多く、力強さ欠く

2月の全産業合計の業況DIは、▲20.5と前月比からマイナス5.1ポイント。

小売業・サービス業は、年始需要が一服する中、急激な気温低下による客足減少と電気代等のコスト増で悪化した。卸売業は、飲食料品や日用品の引き合い減少で悪化した。また、製造業では、機械器具関係全般が力強さを欠き、建設業は、公共工事が一服する中、一部で降雪による工事停滞の影響が見られ、悪化した。(全業種で業況DIが1.0ポイント以上悪化したのは、2024年6月以来8か月ぶり)

長引く物価高に伴う消費マインドの低迷、円安基調や燃油価格の上昇に伴うコスト

ト負担増、深刻な人手不足など長期的課題の山積が続いている。様々なコスト増が続く中、2度に渡る大寒波の影響もあり、中小企業の業況は2か月連続で悪化を示した。先行き見通しDIは、▲15.6と今月比からプラス4.9ポイント

足元で実質賃金がプラス基調で推移する中、新年度関連商品等の需要増への期待感が小売業を中心にうかがえる。

一方、長期化する消費マインドの低迷、コスト負担増人材不足、価格転嫁など、下振れリスクは多い。また、第2次トランプ政権による世界情勢の不安定を懸念する声も引き続き聞かれた。中小企業の先行きは、改善を示すも、不変的な見方が多く、力強さを欠く状況が続いている。

【建設業】

「前年同月と比較して、売上はそれほど変動はないものの、燃料価格や資材価格が上昇しているため、採算が悪化しており、総じてみると業

況は悪化している。今後の見通しも好転材料が少なく、現在のような経営状況が続くと思われ、打開策を見出していかなければと考えている」(一般工事業)

「深刻な人手不足に拍車がかかっている。人材がいれば受注ができ、売上確保につながるため、業況も改善していくと思われる」(大工工事業)

【製造業】

「原材料・燃料・労務費などすべてのコストが増加している中で、価格転嫁交渉に努めているが、再三の値上げ要請となっており、次第に交渉が厳しくなっている。価格競争に巻き込まれない経営を目指すべく、自社特有の製品の扱い量を増やしていく」(自動車・付属品製造業)

「電気・ガス代や燃料費の上昇が経営を圧迫している。補助金・税制面の対策を積極的に行ってほしい」(紙製品製造業)

【卸売業】

「仕入価格の上昇が止まる

気配がなく、卸売価格も上げざるを得ず、必然的に取引先の販売価格も高くなるため、最終消費者の購買意欲が下がっている。実質賃金が多少プラスになっても、消費マインドは低いまま、取引量は減少している」(食料・飲料卸売業)

「仕入価格に加え、輸送費のコスト増も負担になっている。小口案件では、輸送費のほうが高くなることもある」(一般機械器具卸売業)

【小売業】

「強い寒波が長期間続き、厳しい寒さから来店客数が減少し、売上が減少。また、暖房使用量も増えたことで、燃料コストも増加した。加えて、物流の遅延や一部商品の供給不足で在庫調整等が必要となり、思い通りの事業活動が行えなかった」(百貨店)

「仕入価格の上昇分を価格転嫁したが、販売価格を上げたことで来店客数が減少し、売上も悪化してしまった」(文具・事務用品小売業)

【サービス業】

「寒波による急激な気温低下で客足が減少し、売上が伸び悩んだ。加えて、昨今のキャッシュレス決済の普及による手数料負担、振り込みまでのタイムラグの影響で運転資金が不足し始めている」(飲食店)

「賃上げに努めているが、なかなか人材が集まらない。年度末に向けて短時間バイト等のスポットワークを活用する予定である」(遊園地)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

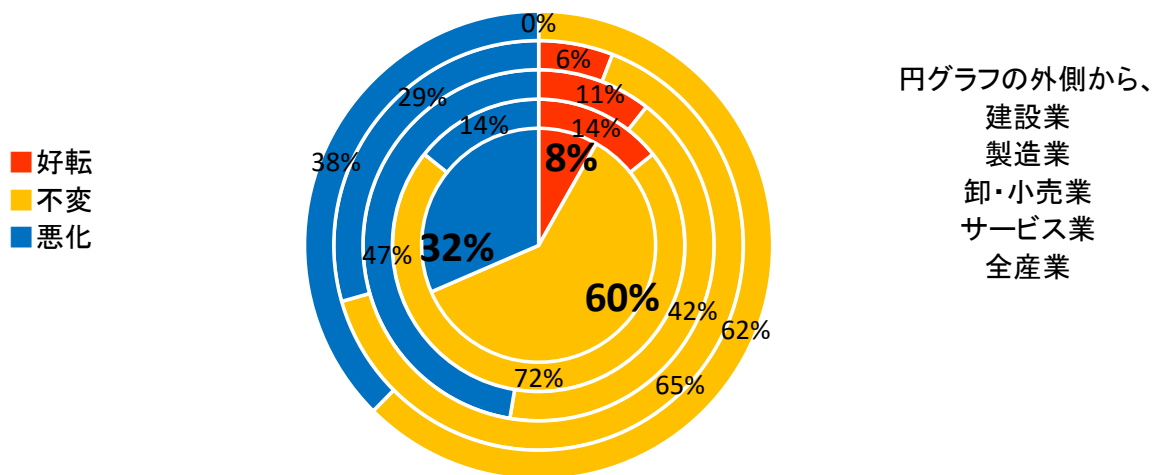
	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲14.1	▲8.4	▲23.4	▲16.1	▲18.7	▲4.3
10月	▲17.2	▲11.8	▲22.0	▲26.1	▲24.1	▲6.9
11月	▲16.3	▲12.6	▲20.4	▲19.0	▲23.2	▲8.5
12月	▲14.4	▲11.3	▲21.4	▲17.5	▲20.2	▲3.4
1月	▲15.4	▲10.6	▲20.7	▲17.2	▲19.7	▲9.4
2月	▲20.5	▲16.7	▲25.0	▲19.5	▲28.5	▲130
見通し	▲15.6	▲14.2	▲16.5	▲20.3	▲20.1	▲10.1

令和7年（2025年）2月の動向

【業況について】

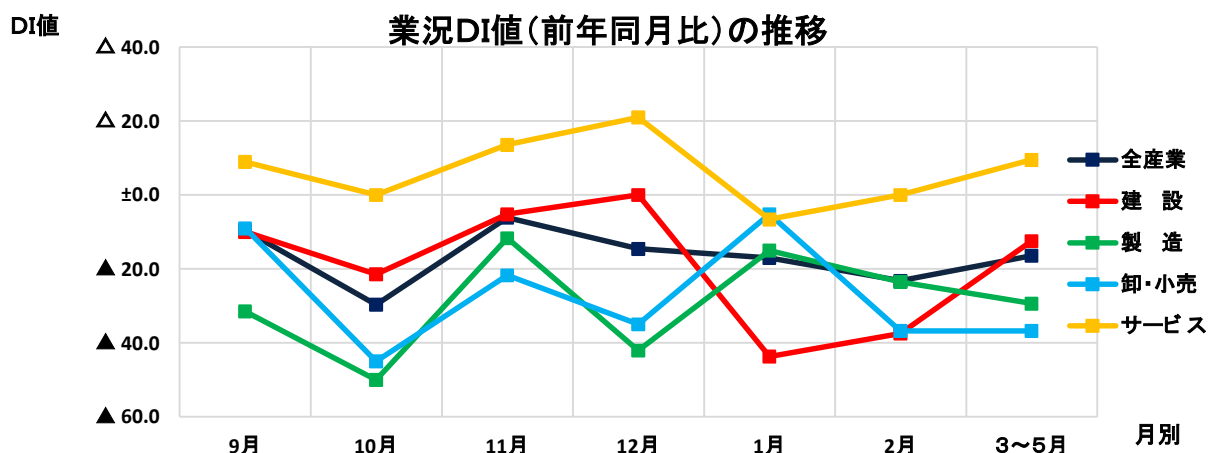
- 2月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲23.2（前月水準▲17.1）となり、マイナス幅が6.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（3月から5月）の先行き見通しについては、全産業では、▲16.4（前月水準▲15.7）となり、マイナス幅が0.7ポイント拡大した。

前年同月と比較した今月の業況について



業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

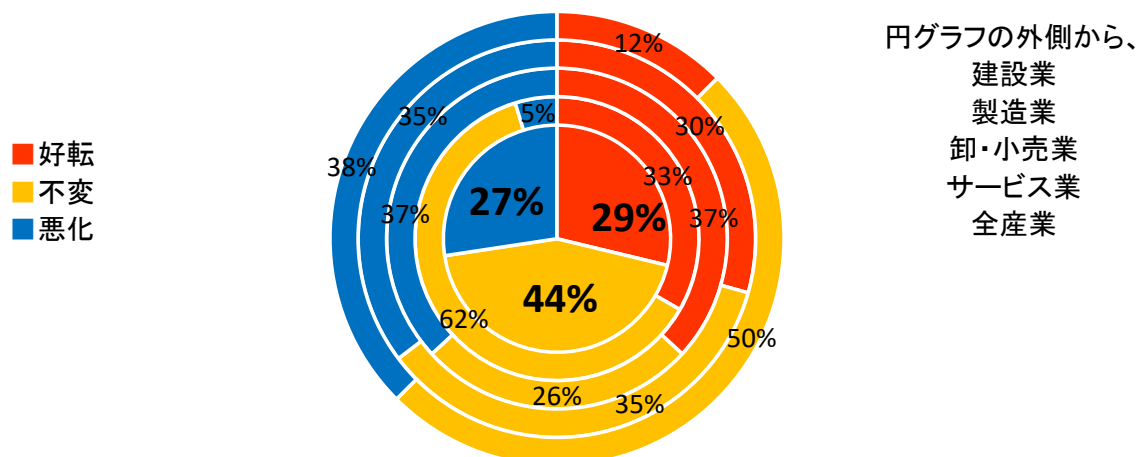
	令和6年				令和7年		先行き見通し
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3～5月（2～4月）
全産業	▲9.6	▲29.7	▲6.1	▲14.6	▲17.1	▲23.2	▲16.4（▲15.7）
建設	▲10.0	▲21.4	▲5.2	±0.0	▲43.7	▲37.5	▲12.5（▲25.0）
製造	▲31.5	▲50.0	▲11.7	▲42.1	▲15.0	▲23.5	▲29.4（▲10.0）
卸・小売	▲9.0	▲45.0	▲21.7	▲35.0	▲5.2	▲36.8	▲36.8（▲36.8）
サービス	△9.0	±0.0	△13.6	△21.0	▲6.6	±0.0	△9.5（△13.3）



【売上について】

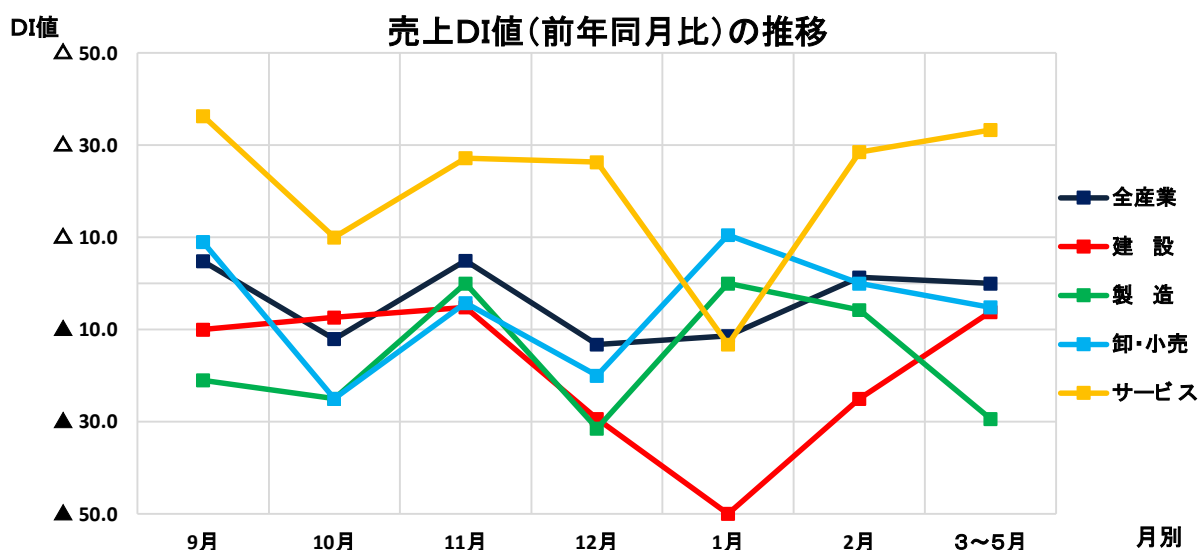
- 2月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1.3 (前月水準▲11.4) となり、マイナス幅12.7ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△0.0 (前月水準▲7.1) となり、マイナス幅が7.1ポイント縮小した。

前年同月と比較した今月の売上について



売上D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

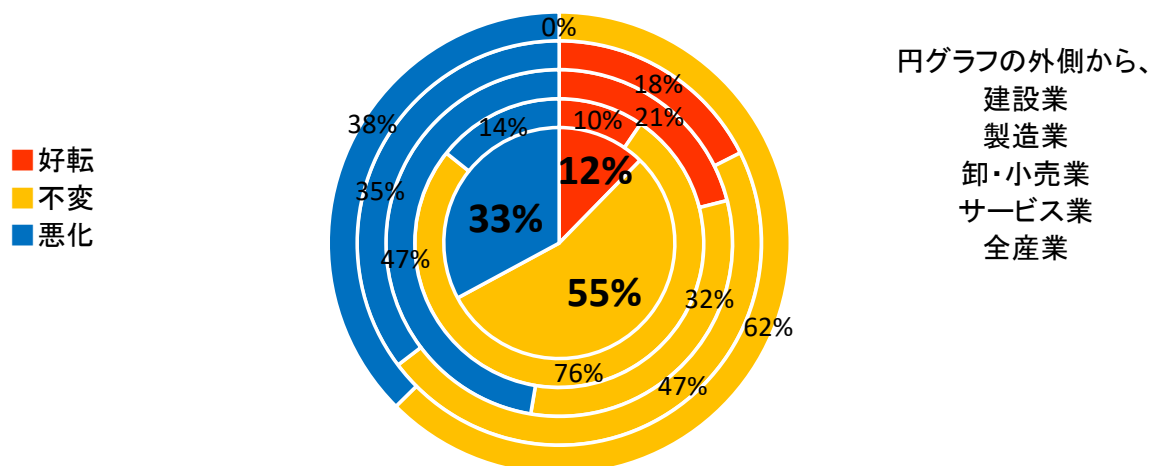
	令和6年				令和7年		先行き見通し
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 (2~4月)
全産業	△4.8	▲12.1	△4.9	▲13.3	▲11.4	△1.3	±0.0 (▲7.1)
建設	▲10.0	▲7.4	▲5.2	▲29.4	▲50.0	▲25.0	▲6.2 (▲25.0)
製造	▲21.0	▲25.0	±0.0	▲31.5	±0.0	▲5.8	▲29.4 (▲5.0)
卸・小売	△9.0	▲25.0	▲4.3	▲20.0	△10.5	±0.0	▲5.2 (▲26.3)
サービス	△36.3	△10.0	△27.2	△26.3	▲13.3	△28.5	△33.3 (△33.3)



【採算について】

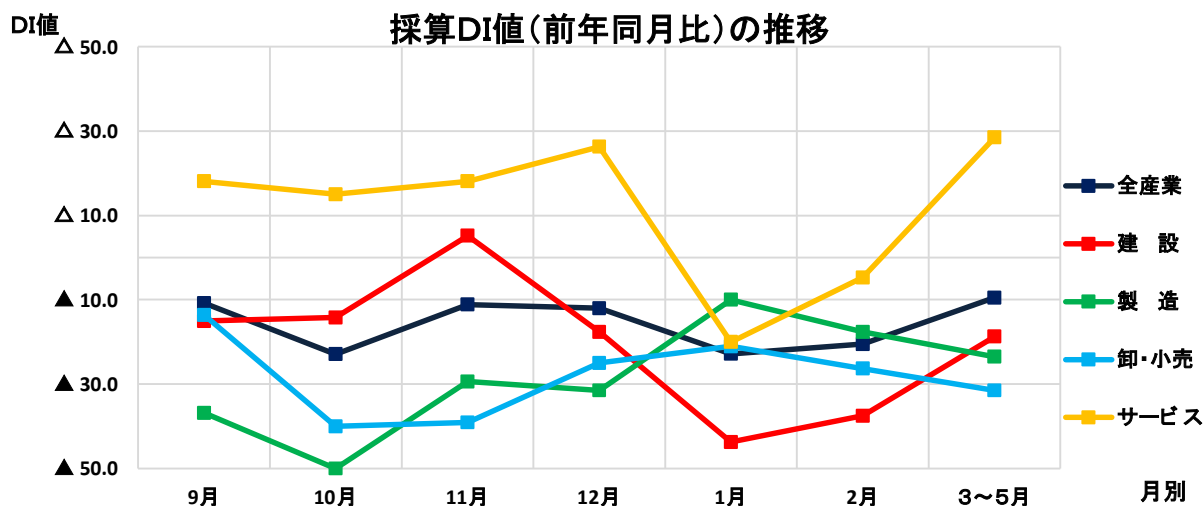
- 2月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.5(前月水準▲22.8)となり、マイナス幅が2.3ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.5(前月水準▲17.1)であり、マイナス幅が7.6ポイント縮小する見通しである。

前年同月と比較した今月の採算について



採算D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

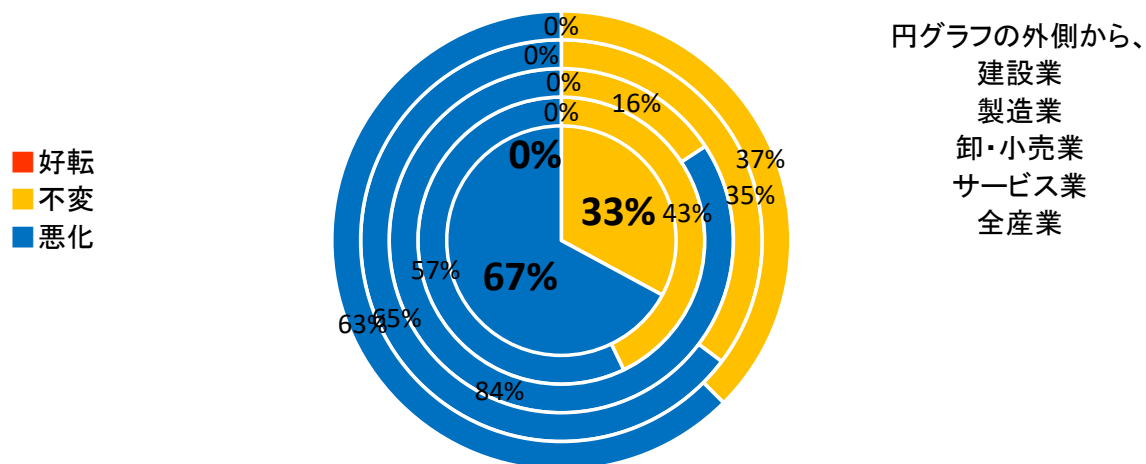
	令和6年				令和7年		先行き見通し
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 (2~4月)
全産業	▲10.8	▲22.9	▲11.1	▲12.0	▲22.8	▲20.5	▲9.5 (▲17.1)
建設	▲15.0	▲14.2	△5.2	▲17.6	▲43.7	▲37.5	▲18.7 (▲31.2)
製造	▲36.8	▲50.0	▲29.4	▲31.5	▲10.0	▲17.6	▲23.5 (▲20.0)
卸・小売	▲13.6	▲40.0	▲39.1	▲25.0	▲21.0	▲26.3	▲31.5 (▲42.1)
サービス	△18.1	△15.0	△18.1	△26.3	▲20.0	▲4.7	△28.5 (△33.3)



【仕入単価について】

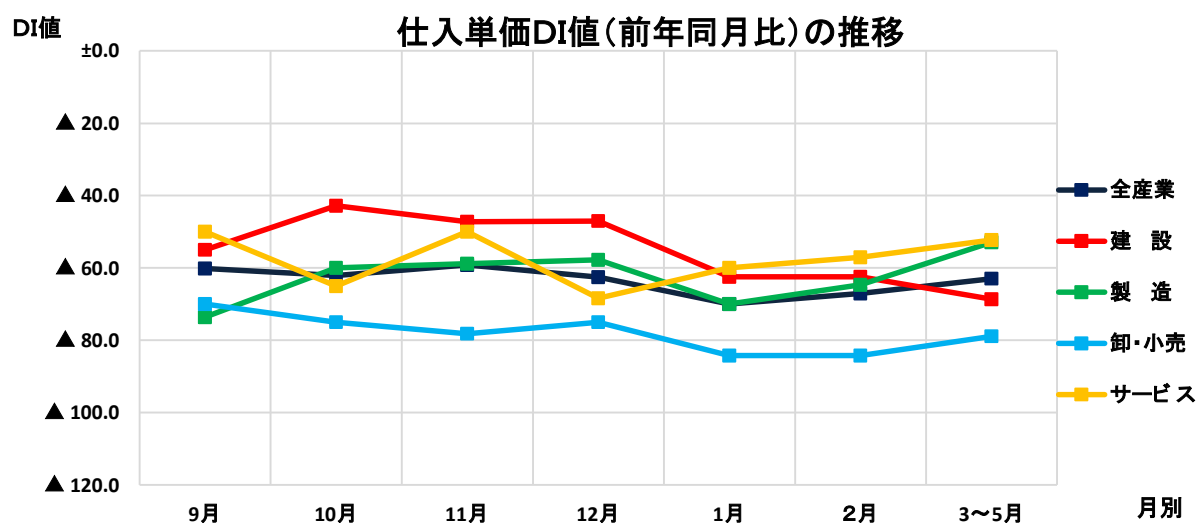
- 2月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲67.1 (前月水準▲70.0)となり、マイナス幅が2.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲63.0 (前月水準▲57.1)となり、マイナス幅が5.9ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の仕入単価について



仕入単価D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

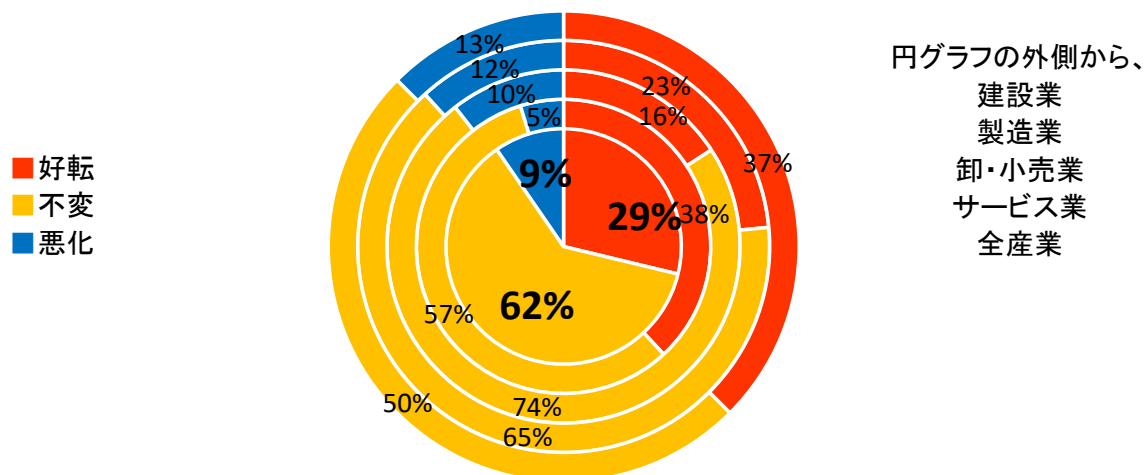
	令和6年				令和7年		先行き見通し
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 (2~4月)
全産業	▲60.2	▲62.1	▲59.2	▲62.6	▲70.0	▲67.1	▲63.0 (▲57.1)
建設	▲55.0	▲42.8	▲47.3	▲47.0	▲62.5	▲62.5	▲68.7 (▲37.5)
製造	▲73.6	▲60.0	▲58.8	▲57.8	▲70.0	▲64.7	▲52.9 (▲60.0)
卸・小売	▲70.0	▲75.0	▲78.2	▲75.0	▲84.2	▲84.2	▲78.9 (▲78.9)
サービス	▲50.0	▲65.0	▲50.0	▲68.4	▲60.0	▲57.1	▲52.3 (▲46.6)



【従業員について】

- 2月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△19.1(前月水準△12.8)となり、プラス幅が6.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△20.5(前月水準△15.7)となり、プラス幅が4.8ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の従業員について

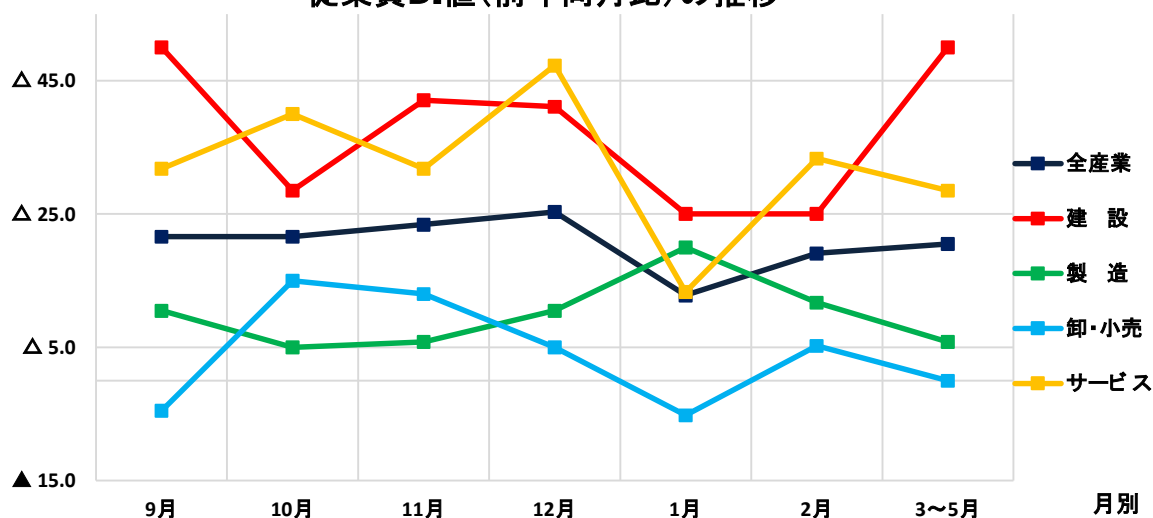


従業員D I 値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年				令和7年		先行き見通し
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 (2~4月)
全産業	△ 21.6	△ 21.6	△ 23.4	△ 25.3	△ 12.8	△ 19.1	△ 20.5 (△ 15.7)
建設	△ 50.0	△ 28.5	△ 42.1	△ 41.1	△ 25.0	△ 25.0	△ 50.0 (△ 37.5)
製造	△ 10.5	△ 5.0	△ 5.8	△ 10.5	△ 20.0	△ 11.7	△ 5.8 (△ 20.0)
卸・小売	▲ 4.5	△ 15.0	△ 13.0	△ 5.0	▲ 5.2	△ 5.2	±0.0 (▲ 10.5)
サービス	△ 31.8	△ 40.0	△ 31.8	△ 47.3	△ 13.3	△ 33.3	△ 28.5 (△ 20.0)

DI値

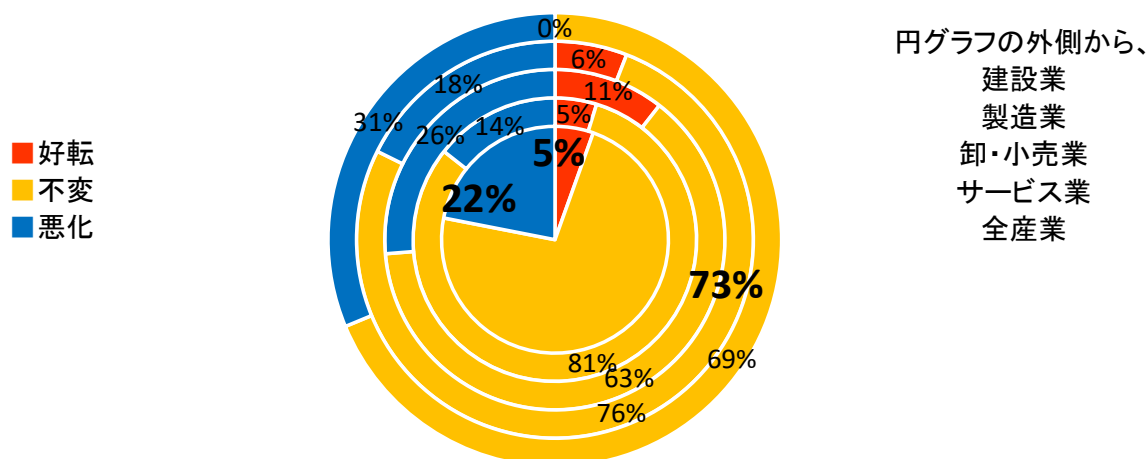
従業員DI値(前年同月比)の推移



【資金繰りについて】

- 2月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.4(前月水準▲8.5)となり、マイナス幅が7.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.3(前月水準▲8.5)となり、マイナス幅が3.8ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の資金繰りについて



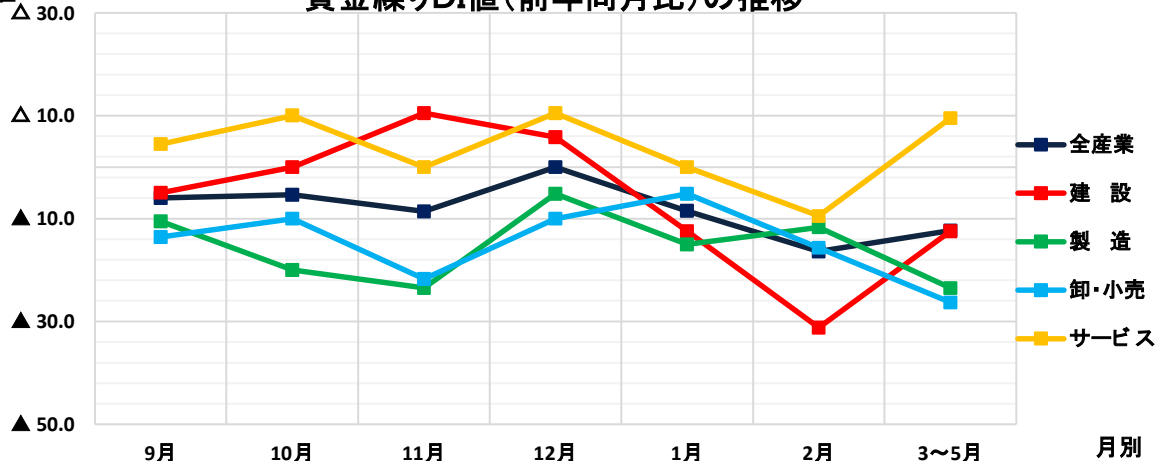
資金繰りD I値(前年同月比)の推移

※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年				令和7年		先行き見通し
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3~5月 (2~4月)
全産業	▲6.0	▲5.4	▲8.6	±0.0	▲8.5	▲16.4	▲12.3 (▲8.5)
建設	▲5.0	±0.0	△10.5	△5.8	▲12.5	▲31.2	▲12.5 (▲6.2)
製造	▲10.5	▲20.0	▲23.5	▲5.2	▲15.0	▲11.7	▲23.5 (▲10.0)
卸・小売	▲13.6	▲10.0	▲21.7	▲10.0	▲5.2	▲15.7	▲26.3 (▲21.0)
サービス	△4.5	△10.0	±0.0	△10.5	±0.0	▲9.5	△9.5 (△6.6)

DI値

資金繰りDI値(前年同月比)の推移

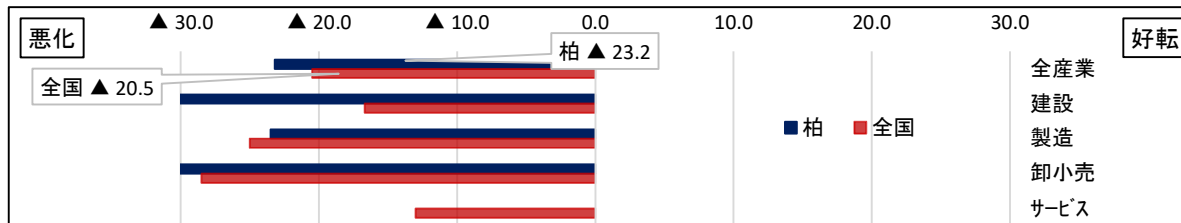


全国（CCI-LOBO）との比較

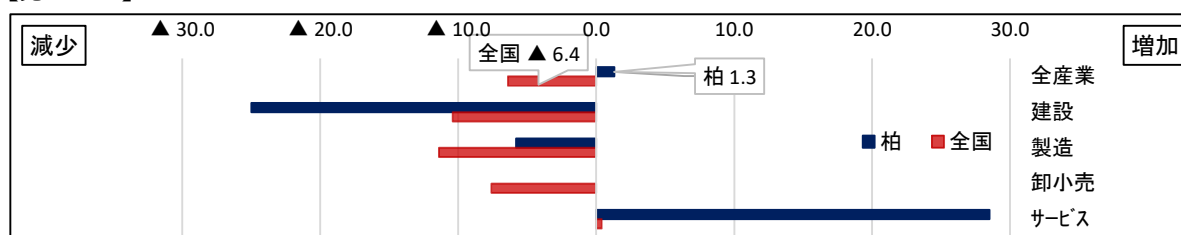
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

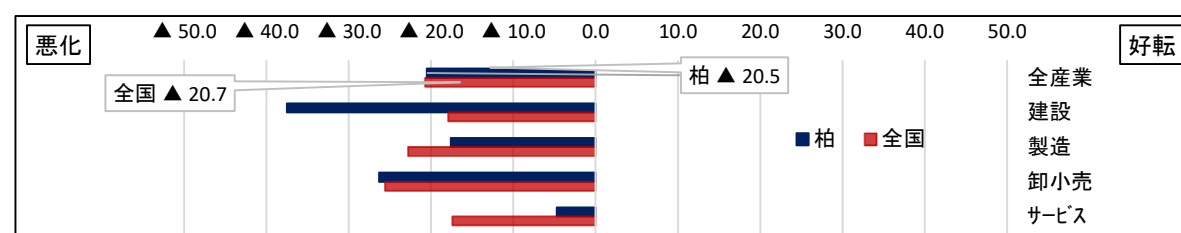
【業況DI】



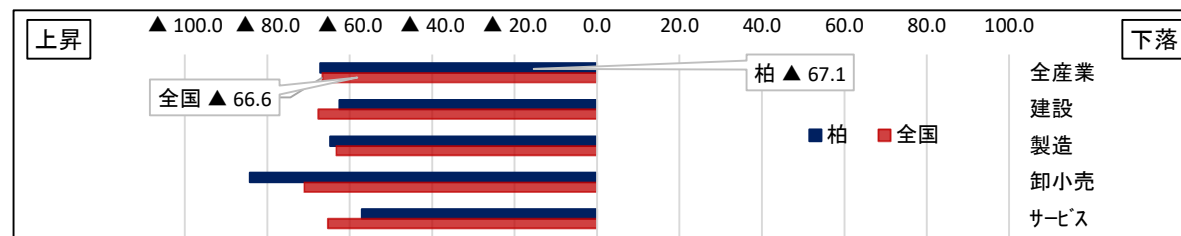
【売上DI】



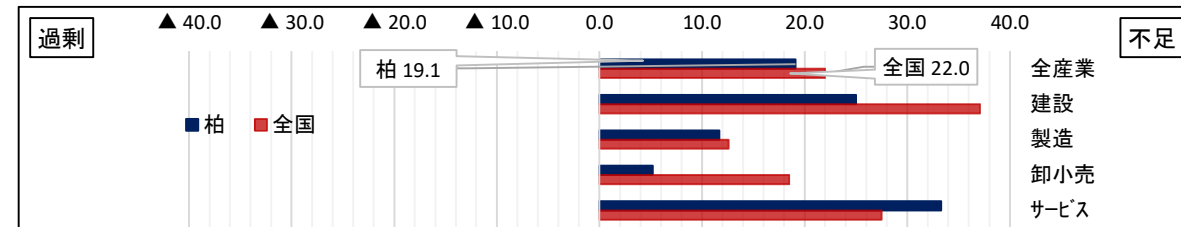
【採算DI】



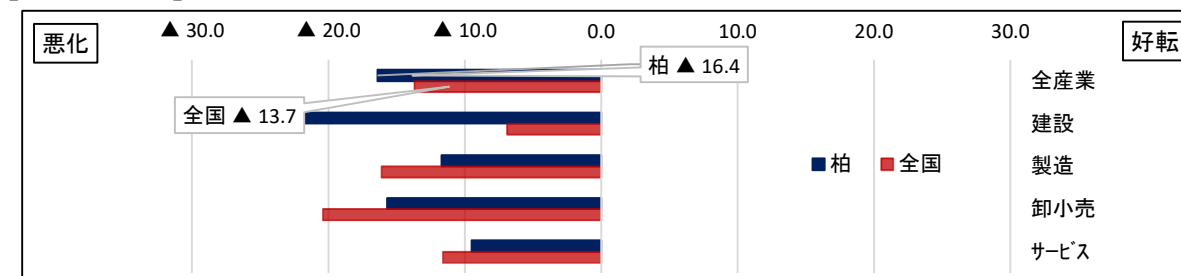
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	タイミーのようなすき間バイト探しが、建設業でも使えるようにして欲しい	一般土木建築工事業
	資材高騰はいつまで続くのか。資材高騰の発端はコロナ禍による生産能力の低下が原因であったはず。現在はコロナ禍で生産過程の変化により、より効率化されているにもかかわらずなぜ値上げが継続しているのかが疑問に思う。この流れに便乗してメーカーは値上げをしているようにしか思えない。塗装業界では材料の値段は値上げ率の低いもので1.5倍、値上げ率の高いものは3倍程度まで上がってしまっている。この状況が続いてしまえば倒産する業者は増えるのは当然だが、それを回避するために何が起こるかという、手抜き工事をして、材料費、労務費を安く抑えることが起きてくると考えられる。完成したばかりは綺麗に見えるが、手抜き工事は3年から5年後には劣化が激しくなり問題が発覚する。そういった工事をする業者はそのころまで残っているか判らないが、おそらく残っていないと依頼した施主はどうしようもない状況になるだろう。いつの時代でもまじめにやっている者が損をしているように思えるが、しっかり施工する業者は必ず残ると信じて進むしかない。創業86年の歴史は信頼が無ければ作り上げることはできなかったと常に社員に伝えてきた。これからなぜこの金額になるのかしっかりと説明することで受注に繋げられる努力をするだけだと考えます。 労務費の値上げは社員の生活に係ることなので弊社でも行いますが、物価上昇率が異常に高いので並行した上昇率を保てるかは厳しい状況です。	塗装工事業
	材料の値上がり止まらず お客様の確保がむずかしい。 工務店も受注に苦労しているようで、それに伴い建築に関係している当社も仕事が減っている	とび
製造業	化粧品容器医療品容器共に既存品の発注が激減、現時点で回復の兆しは見られず暫く苦戦が続きそう	プラスチック加工
	業界全体が冷え込んできていると感じる。	その他の機械・同部品製造業
	現状はコロナ明けの影響で忙しいが長い目で見ると、最低賃金や時間外割増賃金率の引上げがじわじわと効いて厳しくなると考えられる。機械メーカーから見ると生産現場は人で不足が進行しているので機械の合理化をしなくてはならないが進んでいない。力のある企業は合理化設備導入し、力のない企業は淘汰されると思われる。	一般産業用機械・装置製造業
	ルート配達要員として高齢者をパートとして雇用しているが、社会保険を払いたくない人がいる為、週休3日、時間も通常勤務時間よりも短い勤務形態の人がいるので、どうしても休む曜日をずらしたパートを数人雇用しなければならず、ダブって出勤の日は他の仕事をしてもらおう等、効率の良い仕事の分担が難しい。	自動車・同附属品製造業
	引続き社内DX化の推進	金属製品
	・春に向けて請負業務の単価上昇の交渉が進んでいる。 ・離職者の発生に伴う欠員補充は概ね採用ができています。 ・フルタイムへの応募は多いがパートタイム求人募集への応募が少ない。 ・北～西日本での寒波の影響により物流面での影響(到着遅延)が少し発生した。	酒類製造業
	売り上げはそこそこ回復しているが、光熱水費や原材料等の高騰高止まりで、利益率は悪い 来月から春闘に突入するが、人材確保のため労務費アップは避けられず	その他の鉄鋼業

【業種別】 業界内トピックス

卸・小売業	売上は食品や消耗品・ファーマシーは好調、しかし、一点単価は上がり買い控えの中、増加を続けている。 衣料や住居余暇は昨年実績を微増で上回るも食料品程の力もなく不安定。仕入や人件費の高騰で利益は出にくい状況は変わらない。 確定している訳ではないが、この春から更に人件費も上げる見込みであり、その上げ幅は大きいので他の経費削減では吸収できないレベルになる。 経営の効率化や販売促進活動のポイントを絞るなどの努力を続けていく。	大型小売店
	原材料高騰	洋菓子店
	相変わらず仕入れ値が不安定。 便乗値上げが過ぎる。4月の賃上げに期待。	その他の各種商品小売業
	原材料の高騰があまりにも激しくある程度販売価格に転嫁できるもののすべてをカバーできる状態ではない。下手をすれば原材料費が50%アップである。 1年分の原料を一冬で買うので当然資金が足りないが昨今の金利上昇で借入も思い切ってしにくい。困窮している。	食料卸売業
サービス業	柏駅西口はじめ買い物するにも自転車の一時置き場が少な過ぎる。これで駅前の買い物を増やそうというのが無理な話。	不動産賃貸業
	4月から始まる大阪万博の盛り上がりを感じられない。 海外旅行は徐々にではあるが回復傾向の兆しを感じられるが、コロナ以前にはほど遠い。 所謂壁の問題(税金・社会保険料)については人手不足に与える影響がかなり大きいので注視してはいるが、良い方向で決まってほしい。	旅行
	今年に入ってから会の問い合わせは、減少しています。インフレ気味で、原材料の高騰と人件費の上昇により、建築単価も上がっています。全体として、売買も低調です。	不動産管理業
	仕事量も多く売上も伸びていますが、仕入れや給与も上がるので利益は伸びないです。 高騰分をお客様に転嫁しろ、との話は聞きますが容易ではないです。	コンピュータソフトウェア開発
	売上高、業況と好転傾向にあるが、物価上昇に伴うコスト(仕入単価)増加があり、利益率にやや影響が出始めている。DX化を進めるなどの効率化を進めることが課題と考えている。	地質調査・地質コンサルタント
	寒波と強風の影響により来場者が減少したが、客単価の上昇により売上は昨年と同程度を確保。仕入や消耗品価格が引き続き上がっているところに、光熱費や燃料費の高騰が重なり採算は悪化。さらに賃上げ圧力が加わり、先行きの採算も悪化が見込まれる。より一層の業務効率化が必要な状況。減税や社会保険料の引き下げによる実質的な賃上げを政府に強く望む。	ゴルフ練習場
	物価高を経費の見直しでその影響を軽減中だがどこかのタイミングで転嫁が必要と考えています。	不動産賃貸・管理業

調査要領

回答期間

令和7年2月20日 ～ 令和7年3月4日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	73	42.2%
建設	38	16	42.1%
製造	44	17	38.6%
卸・小売	46	19	41.3%
サービス	45	21	46.7%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 